

みんなの45.7.5

みんなで創るみんなのページ。すてきな作品をお待ちしています！

夜夜中 <small>よるよなか</small>	無断血を抜く 吸血蚊	石田 三造 (新・深溝)
梅雨時 <small>ばいうどき</small>	コインランドリー 利用多し	伊丹よしこ (新・新庄)
	イキイキで 笑顔あふれる 夏まつり	福井 良 (安・西万木)
	味覚の香 <small>か</small> 天地の恵み 謝す心	鈴木 京子 (安・藤江)
夏休み	孫との楽しみ あと何日	細野紀代子 (マ・百合)
梅雨明けの	笑顔はじける 湖畔の宿	沢井 美代 (朽・岩瀬)
まん月を	ながめ夢見る 月旅行	高岡ふじ江 (マ・小荒路)
ペーロンの	太鼓琵琶湖の 夏が燃え	高澤 芳枝 (今・松陽台)
セクハラの	暑苦しいよ せみが鳴く	赤塚 光恵 (安・下古賀)
海ゆかば	父と最後に 聞いた歌	向川 明子 (新・藁園)
もつたいない	しかレクレーラー フル稼働	中内 保男 (新・針江)
エコライフ	今夏もゴーヤで 涼を呼ぶ	清水イチ子 (今・今津)
夏祭り	花火にさそわれ 夕涼み	高木 いま (マ・野口)
そうめんの	冷えけだるさを 吹とばし	丸岡亜希子 (新・藁園)
梅雨晴れに	喜寿の想い出 竹生島	中崎 徳子 (朽・桑原)
風鈴の	音も侘しく 秋の風	寺田 義輝 (マ・西浜)
後わずか	思い出いっぱい 夏休み	早田 弘子 (今・今津)
盆踊り	昔なつかし 友集う	伊吹 忠義 (マ・中庄)
夏休み	婆も三食 昼寝付き	久保井とく (マ・寺久保)
原爆を	忘れてならぬ 祈りの日	進士 照子 (新・太田)

打ち水で 少しは涼し 気分かな	梅村 保次 (安・四津川)
暑い時季 白黒仲良く 北京入り	土井 久恵 (安・三尾里)
甲子園 火花を散らす 若人よ	前田 とみ (今・浜分)
夏休み 家族の夢を 絵日記に	松山八夜夷 (今・今津)
帰省の子 孫は小学 6年生	曾根しづ江 (マ・沢)
図らずも 値上げが続ぎ エコの道	平井 真造 (安・上古賀)
幸せの 人生八十路 暑い夏	粟津 秀 (マ・山中)
送り火で 仏送りし 淋しきか	坂田 ツネ (今・角川)
雨あがり 買ってましたと かどの草	森本 幸枝 (今・梅原)
虚飾から 生れたロパク 北京五輪	井口 みよ (高・高島)
暑い夏 異常気温も 秋の風	上田 えみ (マ・浦)
この夏は 今日北京か 甲子園	川本 一男 (安・北船木)
一瞬に 酷暑流せり 大夕立	岩谷 純子 (マ・海津)
地藏盆 日焼の子供 賑やかに	八田富美子 (新・旭)
主病みて 繁る庭木に 蝉しぐれ	栗津 満子 (マ・山中)
前川を せき止め行水 母叱る	飯塚 敬治 (今・角川)
人生の 橋渡りても 残暑かな	丸山 志郎 (今・角川)

★投稿方法
郵便またはEメールで、投稿者氏名・住所・連絡先を書き添えて投稿してください。また、応募は一人1点とし、作品や氏名には必ずふりがなをお願いします。次回締切は10月31日、掲載は12月1日号・1月1日号です。
(秘書広報課)

広告募集中! あなたの店や事業の広告を出しませんか?
■掲載料: 1か月(1発行号限り)10,000円/1枠
■12月1日号掲載分の締切: 10月27日(月)
■問合せ・申込先: 秘書広報課 TEL 25-8130
※ホームページの広告もご利用ください。
1枠1か月 15,000円

交通事故、相続、借金、離婚、不動産 etc
気軽にご相談ください
ご相談受付ダイヤル 077-524-6981
相談料 5000円(60分)
多重債務の相談は 無料
弁護士法人 田原弁護士事務所
大津市中央3-4-28 (銀行前郵便局の向かい)
http://www.ohmi.lawyers-office.jp

市長日記

「高島市の安曇川駅を降りると、空気が違う。地域の人の顔も違う。藤樹先生の遺徳が今なお受け継がれているんですよ」。月刊「致知」の創刊30周年記念式典に集った1,300人の聴衆の前に、致知出版社藤尾社長(第2回藤樹賞)が高島を持ち出されたのです。「いつの時代にも、仕事にも人生にも懸命に取り組んでいる人がいる。そういう人を励ます雑誌」の編者は坂村真民さんの「こつこつ」の詩で心情を語り、中江藤樹賞受賞が芥川賞・直木賞に勝る喜びだったと力説されました。「それ学問は、心の穢れを清め、身の行いをよくするを本実とす」(翁問答)を引き、日本人の心の底には美しい心が、清冽な地下水のように流れている。明治期に、日本の自然の美しさから心の中を感嘆した多くの外国人の言葉の中にからポール・クローデルの「世界で一つだけ滅びてはいけぬ民族をあげるとすれば、それは日本人である」が紹介され、戦争の混乱で否定してしまった日本の美点を目を向け、この国をこつこつ善くしていく存在になろうと誓いあわれました。レセプションに駆けつけた、京セラの稲盛名誉会長、ウシオ電機牛尾会長はともに心を磨き徳を養う話をされ、続いでSBIホールディングス北尾CEOは、「天下得難きは同士なり」と藤樹さんの言葉で激励されました。現在も藤樹さんは多くの人を励ましておられますね。

102歳で市内男性最高齢者の田田雄吉さんから、昔は藤樹祭に、郡内全ての小学校から歩いて参加していたと教わりました。剣熊村など遠い所は高学年だけだったそうで、砂糖で致・良・知と

書いたパンを3つ貰ったことが忘れられないとのことでした。(後に財政難で良・知の2個になったとか)

良知の心は高島全域に地下水脈となって滲えられています。識者は今日の高島の人々の飾らない心がその証であり、病める時代の希望だとまで仰います。

自然の美しさに関しても、今森光彦さんの映像詩、里山の第Ⅲ弾「里山のちみゆる森」が今夏NHKのハイビジョンで全国放映されました。マキノのクヌギの森の「やまおやじ」が語り、長年に亘る人と自然のかかわりを山や森に生きる賢者を通して描き、高島に残る自然の摂理の妙を讀えています。

400年記念事業を通じ、私たちがどんなに素敵なところに住んでいるかを教えられています。「萬里の海は一夫に飲ましむること能はず、三尺の泉は三軍の渴をやむるに足ると云へるものなり」と熊沢蕃山が藤樹先生のことを伝えているように、高島は小さなまちであるけれど、多くの人の心を潤すことができると思います。「孝」や「恕」といった日本人の美德を行う人々の「オアシス」や「灯台」になることや、日本人の「心の駅」になれたらいいですね。それで飯が食えるかとよく言われますが、目の前で起こる事に色はついていませんので、孝を行いたいやりを実践すれば、不安や焦りの渋滞から抜け出せるでしょう。

「善を成すは耕運の如し」で、喜びと安心を育てて参りましょう。

海東英和 拝

チャレンジ! 省エネ 長者作戦

毎日の生活の中で節電などの省エネを心がけることは、地球にやさしく家計を助けることにもなります。

このコーナーでは、家庭で簡単にできる省エネを紹介します。

7つポイント・守って省エネ!

- 1 お湯を沸かすときは、水から沸かさず給湯器のお湯を沸かす。
- 2 鍋やフライパンの底についた水滴を拭き取ってからコンロにかける。
- 3 コンロの炎は、鍋底からはみ出さないようにする。
- 4 野菜の下ごしらえに電子レンジを利用する。
- 5 保温力バーを巻いて、保温や煮込み料理に利用する。
- 6 食材をなるべく使いきる。
- 7 別々の食材を同じ鍋で加熱したり、調理のお湯を使い回す。

◆出典 上手にいただきます食の省エネbook (財団法人/省エネルギーセンター発行) <http://www.ecoj.or.jp/dict/> (環境政策課)